

17. 室蘭市の主な企業

新日鐵住金(株)棒線事業部室蘭製鐵所 (仲町)

前身は、明治42年(1909)創業の北海道炭礦汽船(株)の輪西製鐵場で、敷地面積は418haです。北海道唯一の銑鋼一環製鐵所として、1世紀にわたり、高品質な特殊鋼を東北以北唯一の高炉を使って生産してきました。近年は、室蘭製鐵所の特殊鋼を素材とする自動車部品メーカーが複数社、構内に立地しています。平成24年(2012)10月1日、住友金属工業と会社統合し「新日鐵住金(株)」に社名が変更となり、世界第2位の製鐵会社となりました。

主力製品である特殊鋼棒鋼・B I C、特殊鋼線材は、最高レベルの強度や耐久性などが求められる自動車のエンジン部品や足回りの重要保安部品に数多く使われています。強く優れた鋼材を造るためには「不純物をいかに少なくするか」がキーワードです。構内インフラを生かした「プラスチックリサイクル事業」などを行い、環境産業にも注力しています。

また、室蘭のシンボルである白鳥大橋のメインケーブルは、室蘭製鐵所が製造しました。

(株)日本製鋼所室蘭製作所 (茶津町)

室蘭製作所は、明治40年(1907)に天然の良港である室蘭港を前面に創業し、平成19年に100周年を迎えました。創業以来、長年にわたり受け継がれてきた技術・技能を進化させ、室蘭から世界へ向けた「ものづくりナンバー1工場」を目指しています。

世界最大670tの鋼塊を製造することが可能な世界で唯一の工場で、自社製の1万4千t鍛錬プレス機を2台保有し、大型発電所で使用される一体型タービン軸などを製造することができます。このほか、天然ガスを輸送するクラッド鋼管や石油精製に使用される圧力容器などを製造し、世界屈指の生産設備と高い技術力が世界のエネルギー産業を支えています。

白鳥大橋の建設では、各種サドルやケーブルバンドを手掛けました。

また、ものづくりの原点ともいえる日本刀製作技術の保存と向上のため、大正7年(1918)に瑞泉鍛刀所を開設しています。(瑞泉鍛刀所...83ページ参照)

JXエネルギー(株)室蘭製造所 (陣屋町)

昭和31年(1956)12月に日本石油(株)室蘭製油所として操業を開始し、敷地面積は101haです。経営統合により現在の社名となりました。平成29年4月には、新たに東燃ゼネラル石油(株)と経営統合する予定です。

かつては原油を処理する製油所として稼働していましたが、平成26年(2014)4月より、石油化学製品を中心に生産する製造所へと機能を転換し、ENEOS最北端の製造所で、韓国・ウルサンにあるアジア最大級の石油化学工場に衣料用繊維やペットボトルなどの素材となるパラキシレン原料を供給する国内最大級拠点であるほか、CDなどの素材となるキュメンなど、付加価値の高い製品を主に製造しています。また、本州に比べて北海道で需要の多い灯油・軽油を安定的に供給するための物流拠点でもあります。

高さ180mの集合煙突は室蘭マリンプルーの色彩に塗り替えられ、平成26年11月よりライトアップを開始し、室蘭の工場夜景を彩る新しいシンボルとして親しまれています。

日鉄住金セメント(株) (仲町)

製鉄所で副生される高炉スラグを有効活用した「高炉セメント」を主力製品として製造、販売するセメントメーカーです。昭和29年(1954)6月に設立しました。

工場敷地面積は約23ha、各種セメント製品のほか、注入材やセメント系固化材などの特殊製品を製造しています。特に、高炉スラグを使用する高炉セメントは、環境貢献と耐海水性等に優れ、サハリンプロジェクトでも使用されました。また、さまざまな廃棄物・副産物が焼成・焼却され、セメントに再資源化されています。

函館どつく(株)室蘭製作所 (祝津町)

昭和12年(1937)に設立され、工場敷地は約14haです。主に漁船や漁業調査船、貨物船、運搬船など中小型船舶の建造・修繕と、橋梁などの大型鋼構造物の製造を行っています。また、特に船舶の修繕では国内外で実績を残しており、高度な技術力が評価され、サハリンの砕氷船などの修繕も多数受け入れています。

平成21年(2009)1月に地元の檜崎造船(株)と合併しました。

(株)栗林商会 (入江町)

明治25年(1892)、栗林五朔が酒店を創業したのに始まります。120年の歴史を持ち、室蘭が本社です。室蘭港・苫小牧港での海陸輸送・通関・倉庫業・物流などの運輸事業、建材事業と電機・設備事業などの商事を柱に、保険代理事業、旅行業などを行う総合物流商社です。

ナラサキ産業(株) (海岸町)

電気機械、産業機械、建設機械、セメント、建設資材販売等の総合商社です。

(株)檜崎製作所 (崎守町)

明治35年(1902)、檜崎平太郎が個人経営で創業したのに始まります。昭和59年(1984)8月、(株)檜崎製作所と名称を変更し、現在に至っています。工場敷地5.5haです。

橋梁(鋼橋)、鉄管やゲートなどの大型鋼造物、水処理関連装置を中心とした環境機械などの製作を行っています。

香川工業用地 (香川町)

標高170mの高台に位置する、比較的平坦な草地を造成した工業用地です。北海道自動車縦貫道室蘭インター周辺用地の土地利用計画に基づき、インダストリアルパーク構想の一環として先端技術型企業及び軽工業の立地を目的として造成。第1工区(工業用地面積6.1ha)は19区画のうち18区画が売却済み、第2工区(工業用地面積3.9ha)は9区画のうち3区画が売却済みで、精密金型や建設機械アタッチメント製造、光学用ガラス研磨などの企業が操業しています。

(株)北海道高度情報技術センター^{ハイテクス}(HITEX) (みゆき町)

地域情報化を促進するとともに、高度な情報処理技術者(上級システムエンジニア)を育成し、情報処理産業の振興・育成を図ることを目的に平成3年11月に設立されました。

現在は、インキュベーションを目的としたテナント事業を中心に展開しています。